

UAE製造業 振興の現在

～『Make it in the Emirates Forum 2025』
で見た未来像と日本企業への期待～

中東協力センター スタートアップ企業支援セクター
参事 関 佳予子

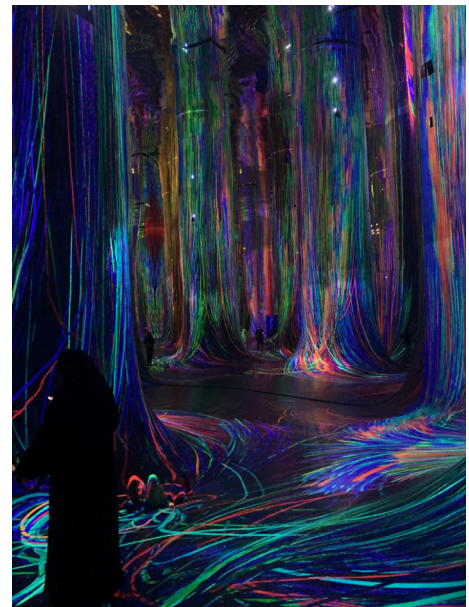


はじめに：文化・観光都市として世界的地位を確立するアブダビ

2025年4月、アラブ首長国連邦（UAE）の首都アブダビに、日本発のアート集団チームラボ株式会社が手掛ける新たなアートミュージアム「teamLab Phenomena Abu Dhabi (チームラボ・フェノメナ・アブダビ)」がオープンしました。この施設は、アブダビ政府が近年推し進める文化・観光戦略の象徴的な直接投資誘致事例であり、アブダビが単なる「オイルマネーの国」という旧来のイメージから脱却し、アブダビを象徴する文化やエンターテインメントとイノベーションが融合する国際都市国家へと変貌を遂げつつあることを明確に示しています。



チームラボ・フェノメナ・アブダビのエントランス



没入型デジタルアート展示

アブダビ政府は、「世界人口の約3分の1が4時間以内、約3分の2が8時間以内のフライト圏内に位置している」とし、アジア・欧州・アフリカを繋ぐ結節点としての地理的優位性を最大限に活用して、世界中から観光客を惹きつけるエンタメ分野への投資を2006年から戦略的に加速させてきました。その中核をなすのが、自然の島をまるごと文化特区として開発する「サディヤット文化地区」プロジェクトです。ここには、フランスのルーブル美術館分館として2017年に開館した「ルーブル・アブダビ」があります。今後は、米国「グッゲンハイム美術館」の分館も開館し、さらにはイギリスの「大英博物館」分館構想も進行中であるなど、世界有数の文化施設が集積する拠点として注目を集めています。

こうした文化施設に加え、ファミリーや若者を含むより幅広い層にアピールするエンタメ施設の誘致にも力を入れています。2010年にはF1グランプリが開催されるヤス・マリーナ・サーキットに隣接して「フェラーリ・ワールド・アブダビ」が、2018年には世界最大級の完全屋内型テーマパーク「ワーナー・ブラザーズ・ワールド」が開園しました。後者については、ハリー・ポッターをテーマにした拡張エリアの構想も発表され、話題を集めています。これらのエンタメ施設群に「チームラボ・フェノメナ・アブダビ」が加わったことで、アブダビは世界各国の文化や魅力を取り込んだ、文化・観光都市としての地位をさらに確かなものとしています。

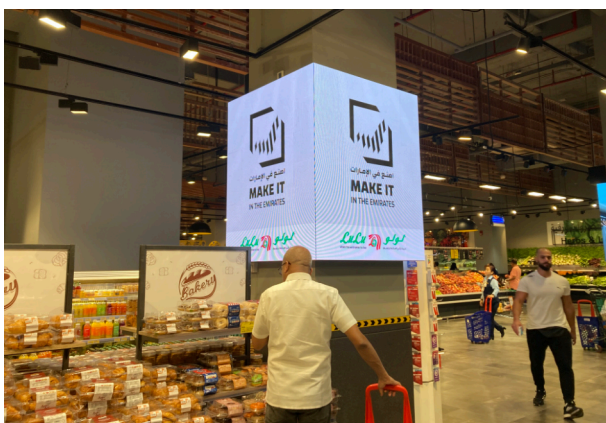
もうひとつの国家戦略：製造業を「サンライズ産業」へ

こうしたきらびやかな観光産業の推進と並行して、UAEが国家の重要な柱として注力しているのが、国内製造業の活性化です。これは、石油資源が将来は枯渇することを見据え、持続可能な経済基盤を構築するためと位置付けられています。

製造業は、多くの先進国において100年以上の歴史を持つ基幹産業であり、新興国でも近年急速に拡大している一方で、グローバル競争の激化やITによる産業構造の変化から、「サンセット（衰退）産業」と見なされることも少なくありません。一方で、製造業の歴史が比較的浅いUAEでは、そうした過去のしがらみがないことをむしろ強みと捉えています。旧来の生産方式や固定観念に縛られることなく、インダストリー4.0などの最新技術を前提とした、未来志向の製造業をゼロから構築できるからです。UAEは、この製造業を自国の未来を創造する「サンライズ産業」と明確に定義しています。

特に、国内石油埋蔵量の9割以上を占めるアブダビ首長国は、その豊富なエネルギー資源から得られる収入をテコに、経済の多角化と製造業の振興を強力に推進しています。自動化、ロボティクス、AI、ビッグデータ分析といったスマートファクトリー技術を積極的に導入し、高付加価値で国際競争力の高い製品を生み出すことで、製造業を国家の新たな成長エンジンにしようとしています。

UAEの産業・先端技術省（MoIAT）が2021年に発表した「Make it in the Emirates（UAEでモノづくりを）」というスローガンは、単なる産業政策に留まらず、キャンペーンとして市民生活にも浸透しています。例えば、UAE全土に展開するインド系小売大手Lulu Hypermarketでは、UAEの国産品を推奨するコーナーが随所に設けられ、多くの食品や日用品が並びます。店頭POPや広告を通じて、消費者の国産品志向を高めています。国内産業を内需から支えるという好循環の構築を生み出そうという機運が感じられます。



Lulu Hypermarket World Trade Centerの店内POP

UAE製造業の発展史と現在の主要プレイヤー

UAEの経済多角化は、数十年にわたる地道な努力の成果です。かつては国民総生産（GDP）の大部分を占めていた石油関連収入の割合は、着実に減少しています。連邦競争・統計局（FCSC）によると、2024年の非石油部門の実質GDPは、約1兆7,760億ディルハム（約71兆円）に達し、全体の75%以上を占めるまでに成長しています。

その製造業発展の歴史をさかのぼると、1985年にドバイで設立されたジュベル・アリ・フリーゾーン（Jebel Ali Free Zone : JAFZA）が大きな転換点となりました。100%外資による企業の所有、法人税・所得税の免除、自由な資本・利益の本国送金といったインセンティブを提供することで、世界中の企業を惹きつけました。このモデルはその後、UAE各地のフリーゾーンにも広がり、外国企業が製造拠点を設ける動きが活発化しました。その結果、豊富なエネルギー資源を活かしたアルミニウムや石油化学製品などの重工業が飛躍的に拡大しました。

現在、UAEの製造業を牽引する主要プレイヤーとして、以下の企業が挙げられます。

(1) アルミニウム産業： Emirates Global Aluminum (EGA)は、世界最大級のプレミアム・アルミニウム生産企業です。ボーキサイトの採掘からアルミナ精製、アルミニウム製錬、鋳造までを一貫して手掛けており、生産量の約9割を輸出しています。特に、自動車、航空宇宙、建設、エレクトロニクスといった高付加価値分野での製品に強みを持ちます。また、太陽光発電を利用したアルミニウムを生産するなど、環境負荷の低減にも積極的に取り組んでおり、持続可能な製造業のモデルケースとされています。

(2) 石油化学産業： 国営石油会社ADNOCとオーストリアの化学大手Borealis社の合併会社であるBorougeは、中東を代表する石油化学メーカーです。ポリエチレンやポリプロピレンといった製品を製造し、自動車部品、パイプ、電力ケーブル、包装材など、幅広い用途の製品を世界市場、特に成長著しいアジアへ供給しています。最新鋭の生産設備と技術革新により、UAEの製造業のグローバル化を力強く牽引しています。

(3) 航空宇宙産業： アブダビ政府系のムバダラ投資会社が所有するStrata Advanced Manufacturingは、ボーイングやエアバスといった世界の航空機メーカー大手に対し、複合材を用いた主翼や尾翼部品などを製造・供給しています。高度な技術力と品質管理能力が求められるこの分野で実績を積み、UAEの先進的な技術力を世界にアピールしています。

(4) 再生可能エネルギー関連機器： UAEは、世界有数の日射量を活かし、再生可能エネルギー分野でもリーダーシップの確立を目指しています。低炭素エネルギー事業を展開するマスダール（Abu Dhabi Future Energy Company : Masdar）が中心となり、アブダビ郊外に未来都市「マスダール・シティ」を建設。ここでは、ソーラーパネルや風力発電設備の研究開発・製造が急速に発展しており、持続可能な社会の実現に向けた重要な実験場となっています。

国家戦略「Operation 300bn」と産業振興フォーラム

これらの製造業活性化策の礎となっているのが、2021年3月に発表された国家戦略「Operation 300bn」です。この戦略では、2031年までに製造業のGDP寄与額を、発表当時の1,330億ディルハムから3,000億ディルハム（約12兆円）へと倍増させる、という極めて野心的な目標が掲げられています。単なる数値目標に留まらず、産業界のデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進、第4次産業革命技術の導入、国内サプライチェーンの強靱化、地元人材の育成、そして海外からの投資誘致を柱としています。

この壮大な戦略の実現に向け、中心的な役割を担うのが、2022年から毎年開催されている産業振興イベント『Make it in the Emirates Forum』です。国内外の政府関係者、製造業者、投資家、金融機関が一堂に会し、具体的な投資機会やパートナーシップの創出の場として機能しています。

5月に開催された第4回フォーラムでは、産業・先端技術省（MoIAT）が文化省（MCY）、アブダビ投資庁（ADIO）、ADNOCと共催し、過去最大規模となる720社以上が出展。政府機関や大手企業からは、数々の国産品調達契約や新規投資案件が発表され、UAEのモノづくりへの強いコミットメントが改めて示されました。また、食品・農業、航空宇宙、クリーンエネルギー、医薬品を含む12の重点セクターで活発な商談が行われました。



Make it in the Emirates Forum 2025

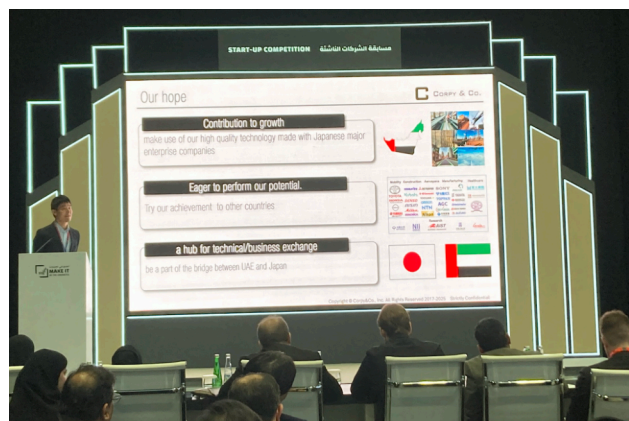
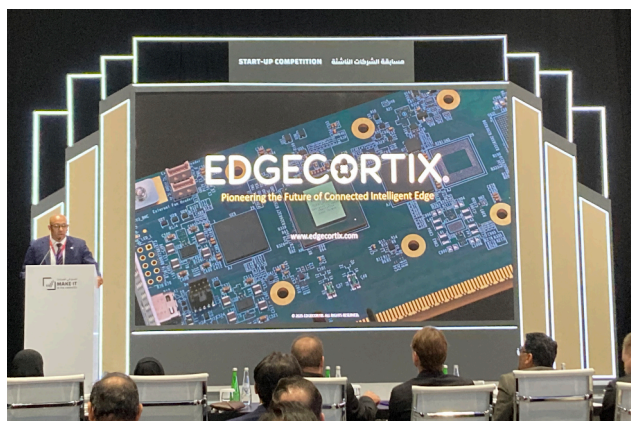
スタートアップとの連携：未来を創るAIピッチコンペティション

今回のフォーラムで注目を集めたのが、AIを活用して製造業のイノベーションを推進するスタートアップを対象とした「ピッチコンペティション（Make it in the Emirates Startup Pitch Competition）」でした。これは、既存の製造業の高度化だけでなく、未来の産業の種を育てることに注力するUAEの姿勢を象徴するイベント。

UAE国内外から約200社の応募があり、厳正な審査を経て選ばれたファイナリスト20社が登壇しました。当センターも関係機関と協力し、日本の優れた技術を持つスタートアップ企業3社（AI検査ソ

リューションの株式会社コピー、エッジAI推論アクセラレーターのEdgeCortex株式会社、デジタルコンサルティング・開発の株式会社モンスターラボ）の参加を支援しました。

コンペティションでは、3Dプリンティングなどのデジタル製造技術をAIで最適化するUAEのAM Labが優勝しました。2位にはAIによるDNA分析で個別化治療を目指すPredictive Middle East (UAE)、3位には医療現場向けの多言語翻訳ソリューションを提供するWorldish（スウェーデン）が選ばれ、UAEのアクセラレーターによるメンタリングセッション（課題解決や成長のためのアドバイスを受ける対話の機会）や賞金が授与されました。



Make it in the Emirates Startup Pitch Competition

急成長するUAEのスタートアップ・エコシステムと日本企業への期待

UAEは製造業の振興と並行し、中東進出を目指すスタートアップ企業のハブとしての存在感を急速に高めています。これは、前述の地理的優位性に加え、政府の強力な支援策、豊富な資金調達環境、そして世界中から集まる多様な人材プールによるものです。

スタートアップ・ゲノム社の「Global Startup Ecosystem Report 2025」によると、アブダビは中東・北アフリカ地域で最も急成長しているスタートアップ・エコシステムと評価され、2023年以降世界ランキングを大きく上昇（81～90位圏→61～70位圏→51～60位置）しています。

この成長を牽引するのが、アブダビ政府のグローバルテック・ハブ「Hub71」政策です。Hub71は、日本を含む世界各国のスタートアップ企業をインキュベーターとして誘致するとともに、資金調

達、グローバル企業との連携、規制緩和（サンドボックス）、市場参入までを包括的に支援する一大拠点です。

特に、クライメートテック、フィンテック、アグリテック、モビリティ、フードテックといった分野において、有望なスタートアップを世界中から集めており、多くの成功事例を生み出しています。日系スタートアップ企業も、Hub71によるアクセラレータープログラムへの参加を経て、UAEへの直接投資を実現しています。



Hub71 内部の様子

おわりに

UAEは、石油依存型経済からの脱却という明確な国家ビジョンの下、製造業の高度化とスタートアップ・エコシステムの育成を力強く推進しており、スタートアップを含む日本企業にとって、大きなビジネスチャンス呈しています。日本の持つ高度なモノづくりのノウハウ、省エネ・環境技術、そしてロボティクスやAIといった先端技術は、UAEが目指す未来像とまさに合致するものです。

当センターでは、アブダビを中心としたUAEへの日系企業の直接投資を支援しています。スタートアップ企業の多くは、ITを駆使したサービス業ですが、独資や現地企業などとの合併により、サービス開発拠点や店舗を新たに設立することを支援いたします。特に、現地製造業の高度化に貢献する技術を持つスタートアップ企業にとって、UAEは中東・アフリカ・欧州市場へのゲートウェイとして極めて有望な市場だと言えます。

現地スタートアップ・エコシステムや市場概況にご関心をお持ちの企業さまは、当センター・スタートアップデスクstartup@jccme.or.jpまでお気軽にご連絡ください。

###

UAE半導体市場の未来：AIが拓く新たな成長戦略

EdgeCortex株式会社 CEO Sakyasingha Dasgupta



EdgeCortexのグローバル展開と中東への注力

当社は、エッジでのAI処理を桁違いの低消費電力で可能とするファブレス半導体企業です。世界でのAI需要の大きな高まりを背景に、日本に本社を置き、設立から6年目を迎える現在、米国、インド、シンガポールに開発や営業拠点を展開しています。

また、国家プロジェクトとしてAI産業の育成を試みている中東諸国への事業展開にも大きな関心があり、中東協力センターやジェトロの支援を受け、まずはサウジアラビアに進出を果たしました。具体的にはサウジアラビア政府が主導する国家半導体ハブプロジェクトの構成企業の一社に選ばれ、同国の半導体エコシステム創生に貢献すべく、今年6月に現地事業法人を設立しました。サウジアラビアへの進出が先行しましたが、当社としては、政府の産業政策により柔軟性が高いとされるUAEへの進出には以前より大変興味を持っておりました。

UAEへの進出と「Make It in the Emirates」への参加

そのような折、スタートアップセクターをはじめセンターのみなさまの多大な尽力を得て、去る5月20日と21日の2日間、アブダビで開催された「Make It in the Emirates」のピッチイベントに参加しました。ユニークで強力な世界各国のスタートアップ企業が一堂に会し、熱いピッチ戦が繰り広げられる中、私も当社技術の革新性を全力で訴えました。残念ながら直接的な成果にはつながりませんでした。しかし、AL MASAOOD ENERGY、Mubadala、Khalifa Fund、Presight AIなど、現地の戦略的パートナー候補との面談を通じ、UAEにおける当社の技術を活用できる可能性を直接、確認する貴重な機会となりました。

急成長を遂げるUAE半導体市場の現状

UAEは「先端製造・技術の自国化（ローカリゼーション）」を掲げ、特にAIと半導体産業の育成に注力しています。半導体市場は2023年に38億米ドルの規模でしたが、2024年から2031年にかけては年平均成長率（CAGR）8.7%で成長し、2031年には74億米ドルに達する見通しです。特に半導体パッケージング分野は2025年から2030年にかけて年平均10%と高い成長率が見込まれています。

成長を牽引する主因として、5GやIoTインフラの拡充、スマートシティ構想、自動車（EV含む）向け需要の拡大が挙げられます。また、UAE国家AI戦略の下でAIデータセンター事業が積極的に進められており、AI半導体需要が急速に高まっています。

UAEのAI・半導体産業における戦略とポテンシャル

さらに、Mubadalaを中心に、GlobalFoundries、TSMC、Samsungといった世界の大手半導体メーカーとのパートナーシップ交渉が進められ、100億ドル超規模の製造拠点誘致計画も進行中です。特に、AIデータセンター「Stargate」など大型インフラプロジェクトと連動する形で、将来的にはUAEをAIチップ製造・組立・テストの拠点とする可能性があります。

課題克服とEdgeCortexの貢献

一方で、優秀な人材の不足、インフラ整備（電力、水、クリーンルームなど）の課題、さらには米中間の地政学リスクおよび輸出管理規制（NVIDIA製品の輸出制限など）といった障壁も存在します。しかし、これらの課題に対しては、UAE政府が打ち出す各種補助金や税制優遇、大学・研究機関との提携、人材育成支援など、包括的な施策が用意されており、これが今後の市場拡大を後押しすると考えられます。

「Edge AIで社会に革新を」：UAEにおける展望

当社としては、UAEにおける先端製造分野に貢献できる独自のAIアクセラレータ技術を有しており、今後も現地企業や研究機関との協業を進めることで、AI推論や生成AIといった高負荷処理を低消費電力で実現する次世代ソリューションの提供を目指します。特に、半導体の低電力化・高効率化は持続可能な社会の実現に直結するテーマであり、これまでに培った技術力とグローバルネットワークを活かし、UAEにおけるスマート社会の基盤強化に寄与してまいります。

以上のように、UAEの半導体産業は、成長の大きなポテンシャルと多くの機会を内包しています。当社は今後も「Edge AIで社会に革新を」のビジョンのもと、UAEをはじめとした中東地域における技術貢献と市場開拓を積極的に進めていく所存です。

（追記）「日本に本社を置く理由」

EdgeCortexは、日本独自のAI受容文化と、今後のAI実装の加速に注目しています。一方で、AIモデルを支えるハードウェア分野における、かつて世界を席巻した日本の半導体産業の現状にギャップを感じ、ここに商機を見出しました。

また、日本政府が半導体エコシステム強化を重要政策と位置づけていることも、日本を本社拠点とする大きな理由です。当社は、日本産業への貢献を目指し、この地からグローバルな成長を目指しています。

###

【筆者紹介】
Sakyasingha Dasgupta
(サキヤシンガ ダスグプタ)

ドイツのマックス・プランク研究所で複雑系物理学の博士号を取得し、英国エジンバラ大学で人工知能の修士号を取得。人工知能および機械学習の技術者、起業家、エンジニア。

マイクロソフトやIBMリサーチ／日本IBMなどのグローバル企業や、理化学研究所、ドイツのマックスプランク研究所などの国立研究所でチームを率い、EdgeCortexを設立する。直近では、日本とシンガポールの半導体テクノロジー、ロボティクス&自律走行車、Fintech分野のリーン・スタートアップで技術部門の設立と指導に携わる。これまでに、世界中で20件以上の特許を取得しており、その研究の引用回数は1000件以上にのぼる。